

千葉 ライフ・ライン ニュースレター No.135

【発行】千葉県テレビ伝道協力会
〒260-0021 千葉市中央区新宿2-8-2
CCCビル 「千葉ライフ・ライン係」
TEL 043-247-3058 FAX 043-247-3072
E-mail: info@chiba.life-line.tv
ホームページ <http://chiba.life-line.tv/>
郵便振替：00110-8-579669

【協力】財団法人 太平洋放送協会(PBA)
〒101-0062 東京都千代田区神田駿河台
2-1 OCCビル
TEL 03-3295-4921 FAX 03-3233-2650
E-mail: mail@pba-net.com
ホームページ <http://www.pba-net.com>
でんわ世の光 03-3291-9061

キリストの招きは電波に乗って

日本ホーリネス教団千葉栄光教会牧師 大前 信夫

1988年7月、初めてブラジルに行った時、日本人の方々が一日に数回放送される日本語ラジオ放送に耳を澄ましておられました。南米ギアナを経由して日本の真反対の地域にも日本から電波が届いていたのです。今ではケーブルテレビでNHK番組が一日中流れるようになりました。このようなことが考えられなかった時代には、日本からの情報はとても限られていました。当時の貴重な情報源は「アンデスの声」の日本語放送でした。太平洋放送協会が尾崎一夫宣教師夫妻をエクアドルに派遣していたのです。

こうして福音は南米の日本人にも電波に乗って日本語で届けられました。でも、たとえ放送電波が届いていても周波数を合わせる必要があるように、キリストの招きの言葉も遠く南米まで日本語で届けられても、心の扉を開かなければその招きは聞く人のものになりません。その心の扉を開かせたものは、キリストの招きと一緒に届けられる言葉でした。

ところでブラジル赴任中に数度、家の外から銃声が聞こえて来たことがありました。そんな時にはしっかりと戸締りをし、じっと家の中にいたものです。誰がいくら騒いでも家の戸は開けません。でもサッカー・ワールド・カップでブラジルが勝った後なら別です。町の空に花火が打ち上げられ、もしかしたら銃声も混じっているかもしれませんが、町中の喜びの声に私たちも窓を開け、ブラジル国旗を振って一緒に喜んだのです。

キリストの招きと一緒に聞こえてくる言葉は大切です。厳しく罪を責める言葉や信じることに疲れた言葉ではなく、頑張る力が抜けた安らかな言葉、どんなことにも意味があると信じている勇氣に満ちた言葉と一緒に聞こえて来るから、キリストの招きにも心を開くのです。「アンデスの声」は開拓に苦勞する人が聞いたかったふる里のニュース、困難にも負けない勇氣と慰めの言葉をキリストの招きといっしょに電波に乗せました。だからその電波は国境を越え、心の垣根も超えたのです。

今日もキリストの招きは電波に乗って人々に届けられています。その招きを私たちの喜びと一緒に届けるのです。だってキリストと一緒に過ごす時間ほど楽しい時はないのですから。

見よ、わたしは戸口に立って、たたいている。だれかわたし声を聞いて戸を開ける者があれば、わたしは中に入ってその者と共に食事をし、彼もまた、わたしと共に食事をするであろう。(ヨハネの黙示録3章20節)

お茶の間に福音!

チバテレビ土曜あさ7時、心をやす30分「ライフ・ライン」

ご家族でお楽しみ下さい。